

2023年11月24日所長会見 所感

- 本日、私からは、11月22日に公表しました、薬物検査結果を誤って判定した事案についてお伝えさせていただきます。
- 本件は、今年10月に実施した薬物抜き打ちの検査において、検査結果が陽性反応を示したにもかかわらず、社員の見張り人が陰性反応と誤って判定し、防護区域内に一時的に入域させた事案です。
- その見張り人は、他の見張り人から指摘を受け、検査結果を誤って判定したことを認識し、報告を受けた核物質防護管理者は、ただちに受検した社員を防護区域内から退域させ、治安機関に引き渡しております。
- なお、検査で陽性反応を示した社員は、警備に対して協力的であり、治安機関や医療機関での検査の結果、違法な薬物を使用していないことを確認しています。
- 一方で、見張り人に対する指導・教育が不十分だったことにより、検査結果を誤って判定し防護区域内に入域をさせたこと。
また、その後の防護区域内への再入域の許可に関して、当社マニュアルに則れば医療機関での検査結果で判断すべきところ、治安機関での検査結果をもって再入域を許可したことなどから、11月22日の原子力規制委員会で、安全上の重要度の暫定評価として「緑」判定が示されております。

- 対策として、社員見張り人に対し、検査結果を正しく判定できるよう再教育を実施しており、今後も定期的に教育を行ってまいります。
また、検査結果や防護区域への再入域の判断に関するマニュアルや手順書等についても、より分かりやすくなるよう、記載を見直しました。

- 今回のように不適合を起こしてしまった場合には、しっかりと原因分析を行い、それを踏まえた再発防止策を講じることで、より大きな不適合に繋げないことが重要です。

- そのための取組が、是正処置プログラムであるCAP活動です。
モニタリング室からの指摘も踏まえながら、気づきとなるCRや不適合一つひとつに対し、自律的な改善を積み重ねることで、この発電所の核セキュリティを継続して高めてまいります。

- 私からは以上です。